

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岡崎市東部学校給食センター	階数	地上2F
建設地	岡崎市中御給28番、29番、36番1、42	構造	S造
用途地域	市街化調整区域／防火指定なし	平均居住人員	80 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,860 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年10月22日
敷地面積	9,814.36 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 青島設計
建築面積	4,777.33 m <sup>2</sup>	確認日	2014年10月22日
延床面積	6,492.83 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 青島設計



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 91%

③上記+②以外の 91%

④上記+ 91%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>7.5 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	7.5 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	7.5 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>御影石</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目			評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 騒音										
1	室内騒音レベル				3.0	0.40				2.9
2	設備騒音対策									2.8
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能				1.8	0.40				
2	界壁遮音性能				1.0	0.60	3.0			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.40	3.0			
4	界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0		3.0			
1.3 吸音										
					3.0	0.20	3.0			
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1	室温				2.2	0.35				2.2
2	負荷変動・追従制御性				3.5	0.50				
3	外皮性能			金属断熱サンドイッチパネル(U=0.89)の外壁、必要最小限の開口	5.0	0.25	3.0			
4	ゾーン別制御性				3.0	0.38				
5	湿度・湿度制御									
6	個別制御									
7	換気・空調に対する配慮									
8	監視システム									
2.2 湿度制御										
					1.0	0.20	3.0			
2.3 空調方式										
					1.0	0.30	3.0			
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1	屋光率				2.6	0.25				2.6
2	方位別開口				1.8	0.30				
3	屋光利用設備				1.0	0.60	3.0			
3.2 グレア対策										
1	照明器具のグレア									
2	屋光制御				3.0	0.40	3.0			
3	視覚的グレア対策				3.0	0.30				
3.3 照度										
					3.0	1.00	3.0			
3.4 照明制御										
					3.0	0.15	3.0			
					3.0	0.25	3.0			
<b>4 空気環境</b>										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質			使用材料は全てF☆☆☆☆、VOC発散建築材料等の使用制限	3.9	0.25				3.9
2	ホルムアルデヒド対策				4.0	0.50				
3	タバコ対策				4.0	1.00	3.0			
4	ヒノキ対策									
4.2 換気										
1	換気量				3.0	0.30				
2	自然換気性能				3.0	0.33	3.0			
3	取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0			
4	給気計画									
4.3 運用管理										
1	CO <sub>2</sub> の監視				5.0	0.20				
2	喫煙の制御			建物全体の禁煙						
					5.0	1.00				
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性				3.3	0.40				3.3
2	高度情報通信設備対応				2.0	0.40				
3	バリアフリー計画	●			3.0	0.33	3.0			
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観				2.0	0.33	3.0			
2	リフレッシュスペース				1.0	0.33				
3	内装計画			けいカル板、合成樹脂塗床、自動扉を全面的に採用、衛生面に配	3.3	0.30				
1	広さ感・景観				3.0	0.33	3.0			
2	リフレッシュスペース				3.0	0.33				
3	内装計画				4.0	0.33				
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計			防汚性の高い内外装仕上げ、ホコリの溜まりにくい開口部構造	5.0	0.30				
2	維持管理用機能の確保			清掃用具入れ、排水設備を十分に確保	5.0	0.50				
3	建築監業業務									
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性				2.9	0.31				2.9
2	免震・制振性能				3.0	0.48				
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数		②		3.0	0.80				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.20				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			調理室の排気ダクト、屋外排気フードにガルバリウム鋼板を使用	3.0	0.33				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			配管ビット内の排水管、通気管に硬質塩化ビニル管を使用	2.0	0.23				
6	主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.09				
					4.0	0.08				
					4.0	0.15				
					3.0	0.23				

2.4 信頼性				2.8	0.19			
1	空調・換気設備			1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			4.0	0.20			
3	電気設備		②	3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.9	0.29			3.9
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1	階高のゆとり			5.0	0.60			
2	空間の形状・自由度			5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.31			
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1	空調配管の更新性		②	3.0	0.17			
2	給排水管の更新性			3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40			2.7
1 生物環境の保全と創出		●	③	2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④	4.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.4
LR1 エネルギー				-	0.40			4.0
1 建築物の熱負荷抑制								
2 自然エネルギー利用				3.5	0.29			3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用			4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				5.0	0.43			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
集合住宅の評価								
4 効率的運用				3.0	0.29			3.0
4.1	モニタリング			3.0	0.50			
4.2	運用管理体制			3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.0
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1	節水			4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63			2.9
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	3.0	0.21			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●		3.0	0.21			
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		3.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1	消火剤			-	-			
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50			
3	冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.0
1 地球温暖化への配慮			①	3.3	0.33			3.3
2 地域環境への配慮				2.5	0.33			2.5
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			
1	雨水排水負荷低減	●		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	●		5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1	騒音	●		3.0	0.33			
2	振動	●		3.0	0.33			
3	悪臭			3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1	風害の抑制			3.0	0.70			
2	砂塵の抑制			3.0	-			
3	日照障害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			4.0	0.70			
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**  
**岡崎市東部学校給食センター**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.6\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>3.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 岡崎市東部学校給食センター

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生管理の行き届いた施設</li> <li>・余裕ある調理能力と快適な作業環境を持つ施設</li> <li>・食育に対する情報発信や学習機能の高い施設</li> </ul>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外壁に金属断熱サンドイッチパネルを採用し、断熱性能を向上させている。</li> <li>・開口部を極力なくすことで、外部環境の室内環境への影響を抑制している。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な広さの調理員休憩室、更衣室を設け、作業環境の快適性向上に配慮している。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品工場としての衛生面を最優先とし、建物に近接して植栽を行うことを避けている。</li> <li>・敷地内道路、通路、植栽等を適切に配置し、敷地内温熱環境の向上に配慮している。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外壁に金属断熱サンドイッチパネルを採用し、断熱性能を高めている。</li> <li>・LED照明器具を全面的に採用、一部高効率照明器具を採用している。</li> <li>・太陽光発電装置を設置している。</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用材料は全てF☆☆☆☆とする。</li> <li>・化学物質を発散する建築材料等の使用制限。</li> <li>・自動水栓、節水型器具の採用により節水に配慮している。</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物高さを極力抑え、周囲とのボリューム感を調和させている。</li> <li>・隣接地に十分な台数の職員駐車場を確保し、地域への交通負荷抑制を図っている。</li> <li>・見学者用の大型バスの駐車場を3台確保し、地域への交通負荷抑制を図っている。</li> </ul>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設リサイクル法を遵守する。</li> </ul>